平成 14年度　年報

市立大町山岳博物館

平成 14 年度の活動から

館長　柳澤昭夫

平成 13 年に山岳博物館は 50 周年を迎え、博物館活動について、さまざまな視点から検討し、総括を行うとともに、博物館協議会委員をはじめ、50 周年を機に大勢の方々から、たくさんのご意見、ご提言をいただきました。

14 年度は、こうした総括やご提言をふまえ、新たに出発した年になりました。

第一歩は「山博おもしろミニゼミ」の開催でした。学校が週五日制を実施したのに対応して、土、日、祝日は、子供体験学習号バスの到着時間に合わせ、学芸員がミニゼミナールを開催しました。参加した人は約 3,000 人、うち子供達は約 700 人でした。十分とは言えないＰＲを反省しながらも、ミニゼミを目的に訪れた人もあり、地域の人と博物館を学芸員が繋ぐという成果を上げたと自負しております。

長年、大きな柱にしてきたライチョウの研究は、蓮華岳における生息状況調査を行いました。また、飼育下でなければ不可能である生理、病理、遺伝学的調査研究は、研究者からの要望も大きく、関係研究者の協力を得てさらに深めていきたいと考えます。併行して蓮華岳、爺ヶ岳を中心に定期的（月 1 回）航空写真撮影を行いました。

現地調査と合せ、積雪、融雪状況、植生環境等の科学的基礎データを集積できました。

クロツバメシジミ、高山蝶、絶滅危惧植物などの調査研究は緊急を要する研究であるとともに、「環境」を考える上で貴重な研究です。

登山史研究として、對山館と百瀬慎太郎の調査を詳細に進め企画展として結実することができました。関係者の多大なお力添えを得て「大町の山岳博物館ならでは」の研究と企画展であったと思います。その他『風雪のビバーク』の足跡調査などは、大町の山の登山史を解明する一歩であり、こうした研究資料の積み重ねを企画展へ結びつけたいと思います。

探鳥会やキノコ学習会、鹿島槍本谷で遊ぼう、動物写生大会などのワークショップは、友の会の活動を含めて、体験して考える、自然の中で感性を豊かにする博物館らしい教育活動でした。

21 世紀は「環境」がキーワードと言われています。大町市は山岳文化都市宣言をしました。自然と人の係わりを学び、豊かな山岳文化を創り出してゆくことは、山岳博物館の課題です。

本年は「環境」をテーマにジャーナリスト江本嘉伸氏をコーディネーターに今井通子氏らをパネリストに迎え、「岳の街おおまちと山岳環境」を考え、博物館の環境教育活動等について課題を掘り下げました。

科学的、論理的に思考することは大事なことですが、同時に豊かな想像力、創造力を育む上で、経験から学ぶ、体験を通して考える、自然の不思議にふれる、不思議や疑問を発見する、体で感じる、感性で考えることも、今重要です。不思議や疑問を発見して帰ることができるような博物館の教育普及活動に力を入れていきたいと考えています。

大町の山の登山史研究、環境問題と博物館の取り組み、ライチョウの生理、病理、遺伝学的研究など、博物館の取り組むべき課題は多様で困難です。もとより学芸員だけで課題を解決できるものではありません。地域の人との係わりの中で館内外の関係者のご協力なしには不可能な課題です。新しく発足した信州大学山岳科学総合研究所と協力協定を結ぶ準備も進めています。調査研究、資料の収集整理、教育活動と、博物館の事業は多岐に渡りますが館内外の大勢の方々や関係機関に一層の協力をいただき、取り組んでいきたいと思います。

Ⅰ　展示事業

１．企画展示

（１）動物写生画展（担当　関）

①会　期：平成１４年７月１３日（土）～２１日（日）

平成１４年７月２７日（土）～８月２５日（日）　※市内４公民館での巡回展

②会　場：講　堂

市内各公民館　※市内４公民館での巡回展

③概　要：

春の写生大会（４月２０日、２７日、５月１１日に開催）に参加した園児や小・中学校の児童・生徒が描いた付属園内の動物や風景の写生画を展示した。

④展示作品：

動物写生画作品１５２点

⑤関連行事：

ａ．春の写生大会

・４月２０日（土）、２７日（土）、５月１１日（土）に付属園にて園児や小・中学校の児童・生徒を対象にした写生大会を開催した。参加者１５２名。

ｂ．写生画審査会

・５月１３日（月）に市内各小・中学校の先生６名を審査員として、優秀作品３２点を選出。後日、中部ブロック審査会（名古屋市）へ送付した。

ｃ．中部ブロック審査会（主催：日動水中部ブロック）

・６月２日（日）に名古屋市東山総合公園にて中部ブロック審査会が行われ、優秀作品３２点が各賞を受賞した。

ｄ．巡回展・動物写生画展（会場：市内各公民館）

・７月２７日（土）～８月２５日（日）に市内４公民館（平・大町・常盤・社）を巡回する動物写生画展を開催し、参加者の最寄りの公民館で作品を展示した。

⑥所　見：

春の写生大会とともに、参加作品の展示も毎年好評をいただいている。今後は、参加する子供たちの動物愛護の気持ちをより高めるために、展示の際に付属園の役割や動物の紹介パネル展示も加えるなどの工夫が必要である。

（２）對山館と百瀬慎太郎（担当　岑村・関）

①会　期：平成１４年１０月５日（土）～１２月１５日（日）

②会　場：１Ｆホール・特別展示室

③概　要：

大町市の山岳文化都市宣言元年・慎太郎生誕 110 年にちなんで開催し、「對山館誕生前史」「對山館の誕生」「對山館と慎太郎」「大町登山案者組合」「對山館その後」の５テーマにて実物および写真・複製資料を展示した。

④主な展示資料：

・針ノ木新道史料　・江戸時代から明治初期の百瀬家に関する史料　・長井雲坪真筆扁額「對山館」　・對山館建物外観配置模型　・對山館宿泊人届簿と雑記帳　・對山館の什器備品類　百瀬慎太郎宛書簡類　・百瀬慎太郎の使用品と自筆メモノート、日記、スケッチ、短冊類　・大町山案内者に関する資料　・百瀬家に残された色紙短冊写真類

総計２０７品目

⑤見学者数：５７０６人

⑥関連イベント：

ａ．公開座談会　わが家對山館・わが父慎太郎を語る

・１０月２７日（日）、講堂にて慎太郎の娘三氏と内孫の百瀬堯氏を招いて、娘としての對山館と百瀬慎太郎の思い出を語っていただいた。視聴者約５０名。

ｂ．ミニゼミ

・１１月３日（日）の「對山館トレック」など、企画展に関連したテーマのミニゼミを７回開催した。延べ１２１人参加。

⑦展示協力者一覧（敬称略）：

ａ．個人

百瀬　堯　　井垣美和　　遠藤三春　　寺田美稔　　百瀬千恵子　　井垣真理　　遠藤優子
寺田春水　　飯島善士　　池田清隆　　石曽根佐和江　　扇田孝之　　金子晴雄
北沢勝二　　北澤繁美　　倉科和夫　　栗林士郎　　黒岩俊夫　　黒岩志げ子　　小林茂喜
櫻井幸雄　　櫻井松子　　篠崎房子　　田中徳夫　　原　大三　　平林久人　　山本携挙
横川　仁　　渡辺英夫
飯島喜久代　　相澤亮平　　清水隆寿　（以上３名は企画段階からの協力有識者）

ｂ．機関・団体

大町市文化財センター　　大町警察署　　大町青年会議所　　長野県立歴史館
大町山岳会

⑧所　見：

對山館と百瀬慎太郎を中心にすえた当館初、全国初の企画展だったこともあって、百瀬堯氏などの所蔵する多くの初公開資料には興味深く長時間見学する人や、研究者の照会が多かった。また、文化財センターなどの全面協力により、江戸時代からの歴史軸が実物と解説によって明確に示されたことで、整然とした見ごたえが得られたと考える。

企画展のための調査･研究･解説原稿執筆などの実質的な展示準備に部外の有識者を加えてチームを組んだ。結果として一施設の限界を大きく越えた広汎かつ貴重な情報が交換・集積され、展示に大きく反映することができた。

今回の一連の作業で、對山館の建物の構造や間取り、暮らしぶりも見えてきた。今後の山岳文化都市宣言事業の推進の基礎資料として、さらなる調査の進展と並行して、大いに活用したい。

なお企画展終了後、内容を記録した冊子を作り、関係個人・機関団体へ配布した。

（３）シベリアオオヤマネコ（担当　清水）

①会　期：平成 14 年 11 月 7 日～12 日
②会　場：２階レクチャースペース
③概　要：平成 14 年に繁殖したシベリアオオヤマネコの移動前の一般公開に伴う剥製展示
④主な展示資料：剥製・写真パネル
⑤見学者数：５２４名
⑥関連イベント：ミニゼミ平成 14 年 11 月 9 日・10 日の「ヤマネコの仔公開」では、2 日間で 229 名の参加があった。
⑦所　見：動物剥製、ヤマネコの人工保育中の写真などを使い、ヤマネコの種としての説明のほか、博物館（動物園）の役割、繁殖個体譲渡の理由などについて小学生にも理解できたものと思われる。

（４）冬期登山者の服装・装備（担当　柳澤・関）
①会　期：平成 14 年 12 月 12 日～展示中
②会　場：２階レクチャースペース
③概　要：（株）モンベルより寄贈いただいた現代冬山登山装備一式の展示
④主な展示資料：登山用ウェア、ザック、テントなど 23 点
⑤展示協力者一覧（敬称略）：株式会社モンベル
⑥所　見：
寄贈資料をいち早く新着資料として展示するとともに、冬期に適した資料の紹介ができた。

２．常設展示
（１）エベレスト山頂の石（担当　関）
①期　間：平成 14 年 8 月 13 日～展示中
②場　所：１階展示室（エベレスト周辺の地形模型）
③概　要：松浦輝夫氏よりの寄託展示。学芸員実習生による企画
④主な展示資料：
昭和 45 年（1970）に日本山岳会エベレスト隊の松浦輝夫がエベレスト山頂付近から持ち帰った岩石（結晶片岩類、0.734 kg）
⑤所見等：
学芸員実習生といっしょに実際の資料受入れから展示にいたるまでの作業を行い、小規模だが具体的な活動を体験してもらうことができた。

（２）万華鏡をのぞいてみよう！（担当　千葉）
①期　間：平成 14 年 10 月～展示中
②場　所：２階展示室
③概　要：木の実や紅葉した葉など入れた万華鏡を通した体験学習
④所　見：
紅葉を万華鏡に入れて覗くことで、違った角度から自然に親しんでもらえることができた。

（3）世界のカモシカ（担当　清水）

①期　間：平成 15 年 1 月 18 日～展示中

②場　所：２階展示室

③概　要：日本国外に分布しているカモシカの仲間の剥製展示

④主な展示資料：

シロイワヤギ・ジャコウウシなど剥製 7 点（タイワンカモシカ・ゴーラル・ジャコウウシは財団法人日本カモシカセンターの借用剥製で平成 15 年 2 月 25 日に返却）

⑤所　見：

ニホンカモシカと多様な外部形態をもつ海外のカモシカと比較することにより、日本に分布しているカモシカの分類上の位置などを知るとともに、カモシカの分類や生態についての理解を深めることができたものと思われる。

（4）剥製ライブラリー（担当　清水）

①期　間：平成 15 年 1 月 18 日～展示中

②場　所：２階展示室

③概　要：コウモリと水鳥の剥製の追加展示

④主な展示資料：

シナノホオヒゲコウモリ・ニホンユビナガコウモリなど 11 点・オオハクチョウ・ヨシガモなど水鳥 14 点

⑤所見等：

種の多様性を知ってもらうことを目的として、大町周辺には多くのコウモリの生息記録があることから、「コウモリ」の剥製を、様々な大きさと形態をもつ「水辺の鳥」の剥製を追加展示し充実させた。

（5）付属園で見られる動物たち（担当　清水）

①期　間：平成 15 年 1 月 18 日～展示中

②場　所：３階展望室

③概　要：

３階の東側の窓から付属園を一望できることから、付属園の飼育動物を剥製展示し紹介した。

④主な展示資料：アルプスマーモットなど剥製 5 点

⑤所　見：

付属園施設（動物園）の概要について理解してもらえたとともに、施設案内の機能としても充実したものと思われる。

（6）おめでたい植物 福寿草１・２（担当　千葉）

①期　間：平成 15 年 1 月 20 日～2 月 15 日

②場　所：２階展示室

③概　要：

博物館で行っている「絶滅危惧種の生活史の研究」で明らかになった発芽特性や開花様式、昆虫と花との関係、痩果（果実）と昆虫との関係についてトピックスとしてパネルで紹介した。展示はスペースの関係上、短期間での終了となった。

④所　見

長野県の絶滅危惧植物の現状と、対象植物の生活史や生物とのかかわりについて理解してもらうことができた。

（7）山と芸術（担当　関）

①期　間：平成 15 年 1 月 21 日～展示中

②場　所：１階ホール

③概　要：若林晴男氏（日本山岳画協会会員）からの寄贈絵画２点の展示。

④主な展示資料：

「山麓田植」（30 号 F・油彩・2000 年制作）、「山村雪景 新行の鹿島槍ヶ岳」（60 号 F・油彩・1999 年制作）

⑤所見等：美術資料を充実することができた。

（8）安曇野の湿地へようこそ！水芭蕉（担当　千葉）

①期　間：平成 15 年平成 15 年 2 月 17 日～展示中

②場　所：２階展示室

③概　要：

安曇地方を代表する居谷里湿原に生育するミズバショウについて、発芽特性や花と昆虫との関係、名前の由来をトピックスとしてパネルで紹介した。

④所　見：

これまで、植物の展示に関しては登山史や動物に比較して説明や情報がかなり不足し、人気の高いミズバショウを紹介できたことは、湿原の重要性を紹介する上でも効果的であったと思う。

Ⅱ　調査研究事業

１．調査研究

（１）ライチョウ生息状況調査（担当　宮野・清水）

蓮華岳において、平成 14 年 6 月 23 日～29 日（抱卵期）3～12 名、7 月 22 日（孵化確認）2 名、および 9 月 14 日 3 名で調査した。調査の結果、推定ナワバリは 9 ヶ所。推定生息数は 22～23 羽。ナワバリは主稜線や主尾根を中心に位置し、確認した 4 個の巣はすべて主稜線・東尾根の北側であった。産卵数は 3～6 個、平均 5.25 個、孵化率は 85.7%であった。これらの数値は、過去の爺ヶ岳の調査と比較していずれも低い値であった。

（２）ライチョウ繁殖環境調査（担当　宮野・清水・千葉）

ライチョウの繁殖環境を把握するための資料として、爺ヶ岳・蓮華岳・白山の積雪状況を知るための航空写真を撮影し、過去の生息状況調査により明らかとなった生態、巣場所とナワバリ範囲（推定を含む）、植生環境と照合し繁殖可能範囲に関する試案を求めた。

（３）ライチョウの低地の植物を用いた喫食行動について（担当　千葉・清水）

平成 14 年 10 月 2 日～8 日までの間、低地に生える植物を用いて嗜好性について 24 時間暗視カメラを用いて観察を行った。結果、5 種の植物（ゲンノショウコ、アキノキリンソウ、青菜）に嗜好性はみられず、飼育下繁殖個体が野外において自ら植物を採食する可能性も示唆された。また、この実験により体重などへの影響は見られなかった。24 時間暗視カメラの観察により、塒立ち・塒入りの時間、採食時間についての資料も得られた。

（４）ライチョウの病理検査および遺伝学的検査（担当　清水）

飼育下における新たな病気に対する対策、予防、治療の調査研究を行うために、平成 14 年 10 月 24 日に飼育個体から血清を採取し、遺伝学的情報などを解析した。これにより、将来飼育個体の野生復帰時における個体識別や、遺伝子の単一化を防ぐ指針として抗体検査を行い病歴の調査や健康状態の把握となるように疾病診断の指標となるような基礎的資料の蓄積を行った。野生個体との比較も併せて行ったが、顕著な差異は認められなかった。また、寄生虫・住血原虫も検出されなかった。糞便からは大腸菌が検出されたが、個体差か加齢による差異がみられることが示唆された。皮膚の菌叢は、ニワトリと類似していた。

（５）大町市におけるクロツバメシジミの生息状況（担当　清水）

平成 13 年調査の継続として高瀬川右岸・左岸を中心として大町市平から松川村・池田町までの間の生息地の確認とその環境、生態観察をとおして 1 年間の発生回数の確認について調査した。

調査は平成 14 年 4 月 6 日～10 月 22 日まで 20 回行った。発生回数は平成 13 年と同じであった。最も生息環境の良い場所における成虫の発生ピークは 10 月上旬の約 30 個体であった。赤色を帯びた幼虫の出現は 9 月 10 日より確認した。

また、大町市の生息環境は現在比較的良好であると考えられるが、今後植生遷移等により

生息個体数の減少が心配される。

平成 15 年度も生息地での継続調査を計画している。

（６）大町市に生息する高山蝶－特にミヤマモンキチョウについて－（担当　清水）

大町市はミヤマモンキチョウの北アルプスにおける分布の北限地域にあたるが、分布には疑問が多い。爺ヶ岳から鹿島槍ヶ岳にかけて本種の生息確認を中心に、大町市における高山蝶の生息状況を調査した。

調査内容は、成虫の確認のほか、幼虫の食餌植物、成虫の訪花植物について調査した。調査日時は平成 14 年 7 月 30 日から 8 月 2 日に実施し、成虫の発生時期確認のため 7 月 17・18 日に常念岳の調査も行った。

今回の調査ではミヤマモンキチョウの生息の確認はできなかった。幼虫の食餌植物、訪花植物からは生息するにあたり問題は見うけられなかった。爺ヶ岳から鹿島槍ヶ岳における本種の生息については、近隣の生息地から飛翔してきた個体を目撃したものであることが考えられた。また、生息しているとしても非常に個体数が少ないことが考えられた。

大町市は本種の北アルプスにおける分布の北限地域にあたるため、平成 15 年は周辺地域の調査も含め精度の高い生息調査を実施し正確な分布を把握したい。

（７）安曇地方の絶滅危惧植物の生活史と増殖法の研究（担当　千葉）

対象植物は、絶滅危惧ＩＡ類イヤリトリカブト（大町市）、ホロムイソウ（白馬村）、アズミノヘラオモダカ（三郷村、堀金村）、絶滅危惧Ⅱ類アズミイヌノヒゲ（大町市、白馬村、八坂村）、準絶滅危惧フクジュソウ（白馬村）、ササユリ（大町市）で、生育地での観察とともに、博物館敷地内に播種し、実生～成植物に至るまでの生活史と栽培の可否の研究を行っている。

①イヤリトリカブト

9 月 16 日および 23 日の現地調査から、訪花昆虫の調査を行いマルハナバチの仲間が花粉を媒介していることが示唆された。博物館での栽培から発芽には低温に曝されることが必要で、発芽 1 年目は初生葉のみが展開し、被陰することで栽培が可能であることが明らかになった。

②ホロムイソウ

5 月 31 日の現地調査からホロムイソウが今年度､ほとんど開花していないことがわかった。原因については明らかにすることはできなかった（山と博物館 6 月号にて発表）。10 月 15 日（東京大学）、16 日（東京都立大学）、17・18 日（国立科学博物館）、25 日（金沢大学）の標本調査から東北および北海道の開花時期や形態について、白馬村産と比較することができた。

③アズミノヘラオモダカ

長野県特産種である本種は生育が限られ、生育地近隣において 8 月 19 日に堀金村の水田を中心に探したが、見出すことはできなかった。なぜ、特定の地域で局所的な生育をするのかはわからないが、水田利用の方法から本種が近いうちに絶滅することが懸念された。しか

し、一方で農薬による形態変異とも言われ、その原因究明が望まれる。

④アズミイヌノヒゲ

平成 15 年 3 月 11 日に信州大学で標本調査を行い、アズミイヌノヒゲと他種との形態を比較した。3 月 15・16 日（東京農業大学）へ赴き形態について情報・意見交換したところ、アズミイヌノヒゲはミカワイヌノヒゲの変種ではなく、エゾイヌノヒゲに含めたほうが良いとの指摘を受け、分類の再検討が必要である。

⑤フクジュソウ

博物館での栽培から発芽には低温に曝されることが必要で、発芽 1 年目は子葉のみの展開で、成植物と比べ生活環がやや遅いことが明らかになった。落下した痩果はこれまでにアリによって運ばれることが報告されていて、博物館においても痩果はアリによって運ばれていた。このことから、生育地においても同様の種子散布型であることが示唆された。

⑥ササユリ

5 月 28～30 日に静岡県農業試験場（静岡県磐田郡）へ赴き情報・意見交換、現地・栽培地の視察を行った。10 月 16 日（都立大）、25 日（金沢大）の標本調査から主な生育地（西日本）の開花時期や形態について観察することができた。

6 月 22～23 日、7 月 1～2 日に現地夜間調査から花粉を媒介する昆虫がスズメガの仲間であることが強く示唆された。

（8）對山館と百瀬慎太郎の調査研究（担当　岑村・関）

①聞き取り・現地調査・文献調査・資料調査

1 月 21 日　百瀬堯氏(慎太郎内孫) …大町市
4 月 13 日　井垣美和氏(慎太郎次女) …鎌倉市
4 月 17 日　寺田春水氏・美稔氏(慎太郎四女)夫妻…大町市
5 月 11 日　遠藤三春氏(慎太郎三女)…大町市
6 月 22 日　大姥堂大祭参列調査・姥尊撮影…大町市
7 月　5 日　大町山岳会、山本携挙・北澤繁美・平林久人三氏…大町市
7 月 27 日　旧對山館建物調査…大町市内
8 月　3 日　井垣美和氏・寺田美稔氏…鎌倉市
8 月 28 日　櫻井幸雄氏(山案内人･櫻井一雄子息)･松子氏夫妻…大町市
8 月 28 日　県立歴史館…更埴市
8 月 30 日　黒岩志げ子氏(山案内人･黒岩直吉子女)･俊夫氏(直吉孫)…大町市
9 月 11 日　遠藤三春氏…大町市
12 月 20 日　北澤紀男氏(山案内人･北澤定治孫)･きよみ氏(同義子)…大町市
ほか百瀬堯氏宅など市内にて随時適宜実施した。

②所　見

對山館と百瀬慎太郎、大町の古い山案内人と山案内者組合、およびそれらをとりまく大町周辺の史的世界については、一部登山界ならびに大町において一定の認識こそあれ、一歩踏み込んだ実態解明はほとんどされてこなかった。

今回の一連の聞き取り調査・百瀬堯氏所蔵資料の把握と調査などにより、大町の山岳文化の「ひとつの原点」といえるこの分野の研究の基盤が形成されたと考える。

（９）「風雪のビバーク」の足跡調査（担当　関・柳澤）

平成 14 年 9 月 2 日～5 日、松濤明・有元克己の北鎌尾根における足跡（昭和 23 年 12 月～1 月、北鎌尾根から槍ヶ岳・穂高連峰・焼岳にいたる縦走計画）をたどるため、高瀬川－水俣川－千天出合から千丈沢・天上沢の両支流を遡行した。

遺稿集『風雪のビバーク』に収録された遭難手記が記されていた松濤明の手帳などが発見された場所周辺や北鎌尾根へのとりつき付近や槍ヶ岳直下にて、周辺地理や環境写真を撮影した。

大町山岳博物館では平成 10 年 8 月より松濤明の手帳などの関係資料を展示しているが、今回それらに対してひとつの参考となる記録がとれた。今後は二次資料として活用できるようにまとめ、さらなる二次資料の収集に努めたい。

（１０）北アルプス登山が体に与える影響（担当　柳澤）

平成 13 年中高年登山者の爺ヶ岳登山で気圧の低下の伴う酸素分圧の低下が体にどのような影響を与えるか調査した。

昨年に続き大町市民登山の燕岳登山者（平均年齢 50.9 才）と大町第一中学校２年生の爺ヶ岳登山者を対象にパルスオキシメーターを用いて調査した。

3000m弱の北アルプスで、高地の影響が血中酸素飽和度の低下となって心負担が増加した。山小屋で一泊後その負担は燕岳登山者に変化なかったが第一中学校生徒は心拍数の減少となった。

２．研究発表・執筆活動

（１）山博ゼミナール

平成 14 年度の調査研究事業の成果を市民の皆さまにお伝えする機会として 2 日間開催した。

①平成 15 年 2 月 16 日（日）　講堂にて

ａ．對山館研究　第一章	岑村	２６名聴講
ｂ．大町登山案内者組合のはじまり	関	２８名聴講
ｃ．北アルプス登山がからだにあたえる影響	柳澤	３７名聴講

②平成 15 年 2 月 23 日（日）　講堂にて

ａ．ササユリの花と昆虫、そして生活史について	千葉	４２名聴講
ｂ．大町に生息する高山蝶	清水	４３名聴講
ｃ．蓮華岳におけるライチョウのナワバリとその繁殖	宮野	３６名聴講

（２）日本産草本植物の生活史研究プロジェクト第 5 回研究発表会（千葉）

①概　要：

「安曇地方の絶滅危惧植物の生活史の研究」について発芽特性、開花特性、花と昆虫との関わりについて発表を行った。

②日　時：平成 14 年 5 月 18 日（土）

③会　場：安原地区公民館　聴覚室（長野県松本市）

（３）執筆活動

館の調査研究事業にかかわる執筆実績について列記する。

①柳　澤

・北アルプスがからだに与える影響①

市立大町山岳博物館　『山と博物館』第 48 巻第 3 号　平成 15 年 3 月 25 日

②宮　野

・“さんぽく”の挑戦　ライチョウの低地飼育

財団法人八十二文化財団　『地域文化』No.61　2002 夏 summer　平成 15 年 7 月 1 日

③岑　村

・對山館の時代とは何だったのか（前）

市立大町山岳博物館　『山と博物館』第 47 巻第 9 号　平成 14 年 9 月 25 日

・對山館の時代とは何だったのか（後）

市立大町山岳博物館　『山と博物館』第 47 巻第 10 号　平成 14 年 10 月 25 日

④清　水

・大町市におけるクロツバメシジミの生息状況

市立大町山岳博物館　『山と博物館』第 47 巻第 7 号　平成 14 年 7 月 25 日

⑤千　葉

・安曇地方における絶滅危惧植物の生活史と増殖法の研究（前編）　―プロジェクト報告第３報―

市立大町山岳博物館　『山と博物館』第 47 巻第 8 号　平成 14 年 8 月 25 日

⑥関

・山旅から登山へ　―茨木猪之吉が見た近代登山の発展―

池田町立美術館　企画展図録『山旅への憧れ　山岳画家　茨木猪之吉』　平成 14 年 10 月 5 日

・山岳画家　茨木猪之吉

市立大町山岳博物館　『山と博物館』第 47 巻第 11 号　平成 14 年 11 月 25 日

Ⅲ　資料収集保管事業（担当　千葉・関）

１．新収蔵資料数

・山岳資料　168 点　・美術資料　3 点　・民俗資料　13 点　・動物資料　37 点

２．新収蔵資料内訳

平成 14 年 4 月 1 日から平成 15 年 3 月 28 日までに、寄託・寄贈によって次の資料を収集した。

受入日	資　料　名	数量	入手先	住所	備　考
5／8	エベレスト山頂の石	1 点	松浦輝夫	大阪府	寄託資料
5／9	スキー、絵ハガキ	3 点	松坂　登	大町市	
5／16	小谷部全助の山日記	3 点	生田正子	東京都	
7／1	民具（背負子、ネコザなど）	13 点	宮尾太美夫	大町市	民俗資料扱い
6／4	昆虫標本（ドイツ箱にて）	36 個	曽根原悳夫	東京都	
9／28	山岳書籍	9 点	関根武夫	埼玉県	
10／2	登山装備	23 点	㈱モンベル	大阪府	
11／19	足立源一郎作絵画	1 点	平岡　徹	白馬村	美術資料扱い
11／19	ピッケル	1 点	平岡　徹	白馬村	
12／28	伊藤孝一著『狸囃子』上下	2 点	渡辺英夫	東京都	
1／4	ミニチュアテントほか	5 点	吉田喜義	東京都	
1／21	若林晴男作絵画	2 点	若林晴男	美麻村	美術資料扱い
2／15	ピッケル	1 点	平井吉夫	東京都	田口二郎旧蔵
2／7	地形図	120 点	足立　朗	神奈川県	足立源一郎旧蔵
3／13	イヌワシ剥製	1 点	百瀬春夫	山形村	

３．資料貸し出し等

年月日	内容（場所等）	主　催	備　考
10/5～12/8	山岳画家茨木猪之吉展	池田町立美術館	協力
2.27～3.10 ほか	安曇野美術館紀行展（京都･大阪･名古屋）	NHK 中部ブレーンズほか	安曇野ｱｰﾄﾗｲﾝ推進協議会として参加・協力

ここにあげた以外にも、収蔵資料などに関する貸し出しや照会が多数あった。

４．資料の保管整理

（１）人文系の資料

①収蔵資料の点数※

山岳資料約 3,550 点（うち寄託約 550 点）、美術資料約 200 点、民俗資料約 1,000 点、歴史資料約 50 点、考古資料約 150 点。

※この点数は通番および整理番号の総計（概数）であり、実際の個別の点数はこれより大幅に増える。

これは、同様の資料や関連する資料を一括してひとつの番号を取得している場合があるためである。

②現　状

山岳・美術・民俗資料については、受入れ台帳と資料整理用紙へ記録している。なお、受入れ台帳はパソコンへの入力（エクセルにて）。

美術・民俗資料は、ごく最近に受け入れた資料を除いて、整理・登録をほぼ終えている。山岳資料のうち、今年度中に学芸員が約 200 点を整理・登録した。

③今後の作業と課題

倉庫・収蔵庫内の整理を進め、保存環境の向上をはかる。また、学芸員によって未登録の山岳資料約 500 点の整理・登録を完了させる。

なお、歴史・考古資料に関しては、文化財センターと保管方法・場所等について調整をはかりたい。

受入れ台帳と資料整理用紙への記録が一段落したら、パソコンに入力した受入れ台帳の記録をもとに、内部資料的な目録を作成する。これにより、外部からの照会などに、より迅速に対応できる。最終的な整理は、データベース化にあると考える。今後、山岳資料だけでも、市販のデータベース・ソフト（アクセスなど）を使って、資料整理用紙の情報と記録した写真の画像を PC へ入力し、データベースを作成したい。

将来的には、収蔵資料の目録やデータベースを段階的に印刷物や HP で情報公開し、当館収蔵資料を調査研究や教育普及に一層広く活用してもらえるようにする。

こうした資料整理作業を進めるとともに、資料の保存環境（1F 倉庫・収蔵庫の設備面）についても早急に改善する必要がある。

（２）自然系の資料

①収蔵資料の点数

哺乳類剥製標本 229 点、鳥類剥製標本 634 点、魚類液浸標本 62 点、両生爬虫類液浸標本 68 点、昆虫標本ドイツ箱 164 点・ほか未標本作製資料約 1,000 点・液浸標本 27 点、維管束植物標本資料約 6,000 点、蘚苔類乾燥標本 697 点、菌類液浸標本 242 点、地質約 1,600 点、その他液浸標本（調査研究資料）103 点

②現　状

現在、収蔵している植物標本については、産地・採集日・採集者・種名については、ほとんどラベルが添付されているが、学名については統一されていない。また登録台帳の作成が滞っている。

昆虫標本は展示標本以外については未整理・未登録である。

動物剥製標本については平成 14 年度に整理・登録を完了している。

③今後の作業と課題

剥製および標本資料の受入れには、少なくとも産地、採集日、採集者が記録されているもので、かつ重要であると認められるものとし、市販データベース・ソフト（アクセスなど）を用いて、登録・整理する必要がある。

当館にはもともと標本庫の設置がされていなかったことから、２F 教室を代用せざるをえ

なかった。このため、密閉性、虫害、湿度・温度管理がまったくできず、雨季から夏季にかけては市販されている除湿機で対応しているが資料への悪影響が懸念される。今後の検討課題といえる。

Ⅳ　動物飼育・傷病鳥獣保護事業（担当　清水）

１．飼育動物　（＊は長期保護動物を含む）

（１）哺乳類　６種

種　　名	オス	メス	不明	計
ニホンカモシカ	4	3		7
ホンドザル		1		1
ホンドキツネ		1		1
ホンドタヌキ		2		2
アルプスマーモット	1			1
シベリアオオヤマネコ	1	1		2
計	6	8		14

（２）鳥類　７種

種　　名	オス	メス	不明	計
ライチョウ	3			3
ヨーロッパオオライチョウ		1		1
ニホンキジ＊	1	1		2
ヤマドリ＊	1			1
トビ＊			7	7
フクロウ＊			1	1
オオコノハズク＊			1	1
計	5	2	9	16

合計１３種　３０個体

2．主な動物の増減

（１）ニホンカモシカ

オス４個体、メス２個体のうち繁殖用として２つがいで飼育した結果、それぞれ１個体出産した。2 個体は同じ飼育舎に入れ人工哺乳で飼養したが、１個体は平成 14 年 10 月 7 日に死亡した。

ニホンカモシカについては、現在飼育している個体の高齢化、野外個体の導入の難しさ、飼育場の問題などから、毎年の出産の見込みは難しい。今後繁殖したニホンカモシカについては友好提携を結んでいるアルペン動物園との交換動物をふまえて、国内動物園に繁殖を目的とした無償貸付（ブリーディングローン）を行い、輸出可能な若い個体の確保を計画している。

繁殖個体

平成 14 年 4 月 28 日　マヤ（メス）とシロ（オス）の間に 1 個体（メス）の出産があった。親が高齢であり乳成分の低下があると予想されることと、親からの細菌感染を防ぐためにすぐに親と隔離し人工哺育を行った。

平成 14 年 5 月 14 日　ミネコ（メス）とクロ（オス）の間に 1 個体（オス）の出産があった。親が高齢であり乳成分の低下があると予想されることと、親からの細菌感染を防ぐためにすぐに親と隔離し人工哺育を行い現在に至る。名前は公募し平成 15 年 1 月 29 日に「さくら」に決定した。

死亡個体

平成 14 年 10 月 7 日　メス 1 個体　平成 14 年 4 月 28 日産まれ　人工哺育で離乳したが、餌が食道に詰まり気管を圧迫し死亡した（162 日齢）。

（2）シベリアオオヤマネコ

繁殖個体

平成 14 年 5 月 13 日ミーコ（メス）とアイガー（オス）との間に 2 個体の出産があった。メスが育仔をしないことから、人工哺育を行った。

県危険動物指定の関係上、条例に適合した飼育舎が 1 棟しかなく平成 14 年 10 月 1 日より繁殖抑制を実施している。

移動個体

平成 14 年 11 月 12 日　オス 1 個体・メス 1 個体　平成 14 年 5 月 13 日産まれ（人工保育個体）　学校法人川原学園東京動物専門学校（千葉県富里市）に教育普及活動に供する目的で無償譲渡した。

3．保護動物

長野県動物園連絡会に加入しており、長野県における傷病鳥獣救護施設の一つとして保護動物を受け入れしている。

（1）収容個体数

哺乳類　4 種 8 個体

（アブラコウモリ 2・アナグマ 1・タヌキ 2・ニホンカモシカ 3）

鳥類　18 種 30 個体

（フクロウ 1・オオコノハズク 1・アオバズク 1・トビ 6・チョウゲンボウ 1・キジ 1・ヤマドリ 1・ヒヨドリ 1・シメ 1・ツグミ 1・キジバト 1・ツバメ 5・スズメ 1・アオサギ 4・カモメ 1・モズ 1・マガモ 1・コガモ 1）

計 38 個体（そのうち死亡 16 個体　放鳥獣 12 個体　現在飼育中 10 個体）

平成 14 年 4 月 1 日から平成 15 年 3 月 31 日までに保護収容した個体数であるが、前年度からの継続依頼 10 個体を含む。

（２）所　見

死亡個体のほとんどは、収容時には処置しても手遅れまたは、重症の個体であり保護収容当日か翌日に死亡している。この傾向は過去の実績からも大型哺乳類に顕著で、獣医師の処置が不可欠であることが多い。また、半年以上収容した個体は野外に復帰できず、長期収容となる傾向がみられる。

Ⅴ　教育普及事業

１．主催事業

（１）山博おもしろミニゼミ

①実績一覧

月	日	曜	内　　容　　（担当）	大人	子供	計
4	13	土	ライチョウの羽（宮野）	2	1	3
	14	日	新しくなった展示（清水）	0	10	10
	20	土	春の写生大会	0	68	68
	21	日	ミズバショウについて（千葉）	0	0	0
	27	土	春の写生大会	0	56	56
	28	日	登山の道具に触れてみよう（関）	0	0	0
	29	月	雪形について（岑村）	62	10	72
5	3	金	ロープと遊ぼう（柳澤）	40	25	65
	4	土	春の昆虫の話（清水）	39	22	61
	5	日	昔の山道具、今の山道具（岑村）	14	63	77
	6	月	ビンゴ・展示室で遊ぼう（宮野）	11	16	27
	11	土	春の写生大会	0	28	28
	12	日	コマクサとサクラソウのはなし（千葉)	0	0	0
	12	日	小鳥の声を聞く会	24	8	32
	18	土	昔の山小屋に泊まろう（関）	28	6	34
	19	日	不思議・ライチョウの巣作り（宮野）	77	3	80
	25	土	山の名前を覚えよう（岑村）	78	4	82
	26	日	解剖顕微鏡を使ってみよう（清水）	21	13	34
6	1	土	もしもエベレストへ登るとしたら（柳澤)	27	15	42
	2	日	カモシカは鹿？（宮野）	5	3	8
	8	土	ライチョウの誕生ものがたり（宮野）	11	0	11
	9	日	山の伝説①泉小太郎（関）	17	2	19
	15	土	スズメバチの巣の中を見てみよう（清水）	14	19	33
	16	日	鹿島槍ってどんな山（柳澤）	30	0	30
	22	土	もし岩登りをするなら（柳澤）	26	0	26
	23	日	ササユリのかんさつ（千葉）	5	26	31
	29	土	とことん大町ウオッチング（岑村）	50	32	82
	30	日	昔の山小屋に泊まろう（関）	39	1	40
7	6	土	ロープで遊ぼうⅡ（柳澤）	3	0	3
	7	日	高山植物の生活（千葉）	24	0	24
	13	土	サルの手と足（清水）	9	4	13
	14	日	山の名前を覚えよう（岑村）	14	1	15

	20	土	山の神は海の幸が好き？（関）	16	2	18
	21	日	槍ケ岳と高瀬川源流（柳澤）	52	6	58
	27	土	ビンゴ・展示室で遊ぼうⅡ（宮野）	8	3	11
	28	日	希少種ビッチュウフウロ（千葉）	12	3	15
8	3	土	山の伝説②デイラボッチ（関）	2	16	18
	4	日	昆虫 - カブトムシのふしぎ - （清水）	17	19	36
	10	土	花のいろいろパートⅠ（千葉）	50	10	60
	11	日	山歩きのコツ（岑村）	67	18	85
	17	土	鹿島槍ケ岳の本谷で遊ぼうミニ登山（柳澤）	7	7	14
	18	日	けもの道をのぞいてみよう（宮野）	24	9	33
	24	土	花のいろいろパートⅡ（千葉）	45	2	47
	25	日	百瀬慎太郎ってだれ（岑村）	25	0	25
	31	土	昆虫 - チョウのふしぎ - （清水）	0	0	0
9	1	日	おんばさまってだれ？（関）	10	0	10
	7	土	氷壁とナイロンザイル（柳澤）	41	6	47
	8	日	秋の鳴く虫（清水）	4	0	4
	14	土	ホシクサ☆ってな～に（千葉）	10	0	10
	15	日	ピッケル談義（岑村）	19	0	19
	16	月	ライチョウの盲腸は大きいぞ（宮野）	32	5	37
	21	土	大町の街と山を見てみよう（関）	47	2	49
	22	日	きのこ学習会	11	3	14
	23	月	カモシカのかかとはどこにある（清水）	27	1	28
10	5	土	企画展オープニング解説（岑村）	19	2	21
	6	日	ライチョウが冬を越すために！（宮野）	17	2	19
	12	土	「風雪のビバーク」高瀬源流をたずねて（柳澤）	50	2	52
	12	土	大町の夜景を見ながらの読み聞かせ(宮野)	12	17	29
	13	日	クロツバメシジミの生活（清水）	7	13	20
	14	月	地図と山の概念図（鹿島槍ケ岳周辺）（柳澤）	20	0	20
	19	土	大町の山案内人たち - 大正・昭和のエピソード（関）	39	0	39
	20	日	タネのいろいろ（千葉）	26	0	26
11	2	土	知られざるクライマー小谷部全助鹿島槍荒沢奥壁の初登攀（柳沢）	18	0	18
	3	日	對山館トレック（岑村）	2	0	2
	4	月	世界にはどんなライチョウがいるか（宮野）	36	3	39
	9	土	ヤマネコの仔公開（清水）	76	18	94
	10	日	ヤマネコの仔公開（清水）	108	27	135
	16	土	越冬前の昆虫観察Ⅰ（清水）	32	7	39

	17	日	近代登山れい明期の大町と對山館（関）	18	0	18
	23	土	博物館で飼育しているライチョウのえさ（宮野）	5	0	5
	24	日	短歌に慎太郎を観る（岑村）	4	0	4
	30	土	越冬前の昆虫観察Ⅱ（清水）	3	2	5
12	1	日	ライチョウの体重ってどのくらい（宮野）	16	7	23
	7	土	對山館の舞台裏を垣間見る（岑村）	16	0	16
	8	日	長野県準絶滅危惧種ササユリの発芽特性について（千葉）	0	0	0
	14	土	知られざるクライマー小谷部全助鹿島槍荒沢奥壁の初登攀（柳沢）	3	0	3
	15	日	まだまだ對山館と慎太郎 - 分かったこと・分からなかったこと（関）	19	2	21
	21	土	冬の草のすごし方（千葉）	0	0	0
	22	日	ワカンジキとコッパ（岑村）	8	0	8
	23	月	冬尺ってなあに（清水）	10	0	10
	28	土	冬の木のすごし方（千葉）	0	0	0
1	4	土	風雪のビヴァーク・松濤明が残した手帳と山道具（関）	3	0	3
	5	日	バックカントリープレイと雪崩　パートⅠ（柳澤）	2	0	2
	11	土	ライチョウのオスとメスの違いは！（宮野）	4	0	4
	12	日	福寿草の開花と花の構造（千葉）	15	2	17
	13	月	山の伝説③　山姥（やまんば）（関）	7	2	9
	18	土	ライチョウの足はウサギの足？（宮野）	6	0	6
	19	日	バックカントリープレイと雪崩　パートⅡ（柳澤）	3	0	3
	25	土	冬の民具に昔の知恵を学ぶ（岑村）	4	0	4
	26	日	福寿草へやってくる昆虫とタネの関係（千葉）	12	0	12
2	1	土	バックカントリーで遊ぼう（柳澤）	9	0	9
	2	日	雪の上でカモシカが残したものは？（宮野）	9	0	9
	8	土	篭川谷の早大山岳部遭難と「北アルプスの犠牲」（関）	2	2	4
	9	日	追跡、百瀬慎太郎らの「冬の立山・針ノ木越え」（岑村）	22	1	23
	11	火	蝶の冬越し（凍らないナゾ）（清水）	5	0	5
	15	土	福寿草のタネと旅の芽生え（千葉）	2	0	2
	16	日	山博ゼミナール：對山館（岑村）	26	1	27
	16	日	山博ゼミナール：山案内人組合（関）	28	0	28
	16	日	山博ゼミナール：登山とからだ（柳澤）	37	0	37
	22	土	凍傷と低体温症（柳澤）	7	0	7
	23	日	山博ゼミナール：ササユリ（千葉）	42	1	43
	23	日	山博ゼミナール：高山蝶（清水）	43	1	44
	23	日	山博ゼミナール：ライチョウ（宮野）	36	1	37

3	1	土	カナカンジキとアイゼン（岑村）	2	0	2
	2	日	ライチョウの繁殖に向けてパートⅠ対峙（宮野）	0	0	0
	8	土	カンアオイの世界（千葉）	4	0	4
	9	日	山岳画鑑賞の楽しみ（関）	6	0	6
	15	土	ライチョウの繁殖に向けてパートⅠナワバリ争い（宮野）	2	0	2
	16	日	登山と危険(柳澤)	31	0	31
	21	金	ピッケルとつえ（岑村）	6	5	11
	22	土	アリとコオロギ（清水）	27	2	29
	23	日	ハナノキについて(千葉)	16	2	18
	29	土	ウェストンが見た大町（関）	14	7	21
	30	日	山のはきものの移り変わり（岑村）	20	1	21
			計	2,203	678	2,881

②概要および所見

４月 13 日より土日祝日、巡回バス「こども体験学習号」の到着時間に合わせ小学生以上を対象に、テーマを絞り、原則として一日４回の解説や体験学習を行った。しかしこのバスの利用者はわずかであり、こどもは参加者総数の約 25%であった。広報や地元紙の報道によって「山博では休みには何かをやっている」という話題性が徐々に定着してきたと思われる。内実をともなうさらなる話題性の獲得・参加対象の絞り込みの検討・メニューの再検討とカリキュラムやマニュアルの作成などが今後の課題である。

２月 16 日と 23 日にはミニゼミの本格版として山博ゼミナールを開催し、日ごろの研究成果を伝えた。

（２）小鳥の声を聞く会（担当　清水）

①日　時：平成 14 年 5 月 12 日（日）4 時 30 分から 12 時

②場　所：山岳博物館から鷹狩山山頂

③講　師：腰原正己・鳥羽悦男・長澤修介（協力：博物館友の会）

④参加者数：一般 18 名　友の会会員 14 名　職員 3 名　形 36 名（うち子供 8 名）

⑤概　要：

野鳥を中心とした自然観察会を山岳博物館友の会の協力を得て実施した。観察した鳥数 36 種（サンコウチョウ・オオルリ・サンショウクイ・クロツグミ・ノジコなど）この観察会は、今回で 22 回を数え鷹狩山での調査記録を蓄積した。このように同じ場所での調査を継続することにより、野鳥の生息動向などを知る重要な資料となり事業の継続を望む。

（３）春の写生大会（担当　関）

①日　時：平成 14 年 4 月 20 日（土）・27 日（土）・5 月 11 日（土）

②場　所：町山岳博物館付属園

③講　師：荒井泰三（写生指導）、（協力：博物館友の会）

④参加者数：１５２名（園児 29 名、小学生 105 名、中学生 18 名）

⑤関係行事：「写生画審査会」　5 月 13 日（月）　大町山岳博物館講堂

「動物写生画展」　7 月 13 日（土）～21 日（日）　山岳博物館講堂

8 月 3 日（土）～25 日（日）　市内各公民館

「動物写生画表彰式」　7 月 21 日（日）　山岳博物館ホール

⑥所見等：

市内の幼稚園・保育園の園児、小・中学校の児童・生徒を対象にした付属園の動物を画題とする写生大会であり、動物に親しみながら写生を楽しむ機会を提供し、毎年好評をいただいている。今後は、参加する子供たちの動物愛護の気持ちをより高めるとともに、付属園の役割を一層知ってもらうための工夫が必要と感じる。例えば、写生大会にあわせた飼育動物の説明や、写生画展の際に動物の紹介パネル展示などである。

また、優秀作品を選出する現在の形が、子供たちの自由な発想や創造性を養うような描画教育につながるのか疑問であり、今後検討を要する。

（４）キノコ学習会（担当　千葉）

①日　時：平成 14 年 9 月 22 日（日）

②場　所：鷹狩山周辺

③講　師：太田勇・飯島八郎・高野哲哉・清沢由之、（協力：博物館友の会）

④参加者数：28 名

⑤所見等：

本事業の目的はキノコ等を通して自然の仕組みと付き合い方を考えることにある。野外での指導やテキストの配布は効果的であり、キノコを通して自然の仕組みや付き合い方の理解は深まった。今後はさらに理解を深めてもらうために展示も必要である。

（５）シンポジウム「岳の街おおまちと山岳環境」（担当　関）

①日　時：平成 14 年 9 月 29 日（日）　午後 1 時 30 分～午後 5 時

②会　場：サンアルプス大町 2 階

③概　要：オープニング演奏　チャーリー宮本と風の行者

報　　告　平田和文・山田淳

パネリスト　今井通子・山田淳・土田勝義・尾沢洋・柳澤昭夫

コーディネーター　江本嘉伸

④参加者数：約２００名（市民や近隣住民などが中心）

⑤関連イベント：

シンポジウム終了後、市内別会場にてパネリストを囲んでの懇親パーティー「パネリストと語ろう！」（会費制）を開催した。

⑥所見等：

北アルプスとその山麓地域が抱える様々な環境問題を取り上げ、地球全体の環境について考えた。その中で、地元市民は環境問題をどう考えていけばよいのか、また、大町山岳博物

館は次世代への環境教育の担い手としてどのような役割を果たしていくべきなのか。これらについて、パネリストからそれぞれの経験をふまえた具体的な意見・提言を行っていただいた。

山の環境問題や、山を最大限に活かした町づくりについて、市民や市内を訪れる観光客・登山者などへ意識啓発が図れた。今後、こうした意見・提言を当市の「山岳文化都市宣言」事業に反映していきたい。

また、平成 14 年は国連が定める「国際山岳年」にあたり、山岳地域に関する環境保全や開発などを検討する会議やシンポジウムが世界的な規模で行われており、本シンポジウムの開催によって当市でもその一端を担う活動を展開することができた。

今後、こうしたシンポジウムや講演会を開催する際は、企画展にあわせたテーマをかかげて企画展事業の一環と位置付けたり、長期的な展望によるシリーズ開催の形で進めたりすることによって、教育普及の効果がより高まると考える。

なお、このシンポジウムは長野県の地域づくり総合支援事業として開催した。

（６）読み聞かせと夜の博物館見学（担当　宮野）

①日　時：平成 14 年 10 月 12 日（土）

②会　場：山岳博物館第２展示室及び３階展望室

③講　師：読み聞かせボランティア「ちいさいおうちの会」（一本木佐知子、宮澤俊子、菅澤昭子）

④内　容：読み聞かせた本の題名「だれかがほしを見ていた」「きこりとおおかみ」「ほらこのとおり　鳥のにげかたおしえます」「もりのさんぽ」

④参加者数：26 名（子供 16 名、保護者 6 名）

⑤所見等：

大町市が進めている読み聞かせの活動を支援し、参加対象者を小学生低学年から幼児にして、幼い頃から博物館に親しむことを目的とした。テーマを第２展示室の見学にあわせて「いきもの」、３階からの夜景にあわせて「夜・星」とした。読み聞かせに熟練された方の話に吸い込まれるように子供たちは聞き入っていた。読み聞かせグループの活躍の場を広げること、幼い子供たちの興味を高めることに効果があった。

２．各種実習への対応

（１）対応一覧

月　日	内　　容	実　　習　　者	備　考
7／17～18	職業体験学習　動物飼育	大町第一中学校３学年　２名	
8／2	職業体験学習　動物飼育	大町第一中学校２学年	見学のみ
8／2～11	学芸員実習	各大学生 3,4 年生　４名	
9／5	職業体験学習　動物飼育	大町仁科台中学校２学年　３名	
3／4～16	業界研修　動物飼育・観察	東京ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝｱｰﾄ専門学校２年生　１名	

（２）概要および所見

①職業体験学習

動物飼育担当職員の指導で、餌の調理・給餌・清掃など一連の作業を体験していただいた。

②学芸員実習

主に資料整理と教育普及事業のひとつであるミニゼミの補助・企画準備・実践をしていただいた。4名一括の実習生受入れは初めてのことだったので、昨年までの比較的計画性の低い業務補助を見込むような対応を改め、計画的に担当を決めて対応した。やや目の行き届かない状況もあったが、学芸員実習らしい体裁が整った。

③業界研修

動物飼育担当職員の指導で、一連の飼育作業を独力でこなせるまでに研修していただくとともに、本人の希望によりカモシカの行動記録、食餌量と排泄量の比較調査をしていただいた。

３．各種学習会等への館内対応

（１）対応一覧

月　日	内　容　（場所等）	主　　催	担　当
5／20	登山事前学習	仁科台中学校	柳澤、宮野、清水、千葉
5／21	遠足にて見学	大町北小学校	宮野、千葉、関
5／23	登山事前学習	大町第一中学校	柳澤
5／25	ｼﾞｭﾆｱ･ﾘｰﾀﾞｰｽｸｰﾙ	中信地区ｽﾎﾟｰﾂ少年団	宮野
6／5	総合学習	白馬高校	千葉、関
6／6.	総合学習	大町第一中学校	柳澤、宮野
6／11	総合学習	大町第一中学校	柳澤、宮野
6／15	ミニゼミ:スズメバチの巣の中を見てみよう	友の会子供探検クラブ 大町市児童館	清水
6／20	生活科の授業	大町東小学校	
6／20	総合学習	大町第一中学校	柳澤、宮野
7／3	総合学習	大町北小学校	
7／5	登山事前学習	美麻村中学校	柳澤
7／24	総合学習	大町第一中学校	宮野
7／31	職員研修	大町東小学校職員	
8／2	授業にて見学	駿河台大学文化情報学部	
9／6	総合学習	仁科台中学校	宮野、千葉
9／11	総合学習	白馬高校	
10／9	総合学習	白馬高校	
10/12～13	夜の博物館見学	友の会子供探検クラブ	柳澤、宮野
10／29	見学	諏訪市博物館友の会	

12／14	見学	立川市合唱連盟	柳澤

（２）所　見

各方面からの依頼に対して、できるだけ要望に沿う形での開催を目指した。

今後は、博物館の展示や収蔵資料を利用した学習会について、市内小中学校の先生などに意見・提案を求め、博物館が館内や市内周辺のフィールドで子供たちに提供できる教育プログラムを作成し、博物館施設・機能の積極的な利用促進を図りたい。

４．ボランティア活動（担当　宮野）

（１）友の会との連携

月　日	内　　容	人員
4／20	ボランティア講座	11 名
4／20	写生大会受付	１名
4／27	写生大会受付、館内案内	２名
4／29	館内案内	2 名
5／3	館内案内	1 名
5／4	館内案内	1 名
5／5	館内案内	4 名
5／11	小鳥の声を聞く会準備	3 名
5／12	小鳥の声を聞く会	3 名
5／20	館内案内	１名
8／16	館内案内	１名
9／22	館内案内、キノコ学習会	3 名
9／28	シンポジウム	約 10 名
1／26	館内案内	１名

（２）その他

月　日	内　　容	団　体　名	人　員
／	博物館周辺、付属園内清掃活動	天理教信濃北安分教会	約 100 名
7／18	博物館周辺清掃活動	有明高原寮	約 60 名
4／27～	展示パンフレットの企画、作成	ジュニアートライアングル	約 10 名

５．テレビ・ラジオ・新聞等への出演・協力・執筆

（１）新聞連載　大糸タイムス「山博ゼミ」

発行月日	回数	執筆者	題　　名
３月　１日	1	宮野	ライチョウの足はウサギの足
３月　８日	2	柳澤	雪崩は積雪内部の弱層から発生

３月１５日	3	岑村	登山史に埋もれた「雪の立山・針ノ木越え」
３月２９日	4	柳澤	しもやけ、凍傷、疲労凍死

（２）その他

・１０月　７日（月）　ＮＨＫ長野　テレビ出演　對山館と百瀬慎太郎展ＰＲ　岑村

・１０月１７日（木）　NHK 長野　ラジオ出演　對山館と百瀬慎太郎展ＰＲ　岑村

・１０月１７日（木）　信濃毎日新聞朝刊　1・30ｐ　高山蝶の写真提供　清水

６．ホームページ

学芸員情報・飼育動物種の更新。イベント・「山と博物館」の紹介。

サーバーの移転にともなう URL の変更。

http://www.ntcs.ne.jp/sanpaku/alpine.htm

↓

http://www2.city.omachi.nagano.jp/sanpaku/

７・出版物一覧

以下、大町山岳博物館編

書　　名	発行先	発行年	備　考
山と博物館	大町山岳博物館	毎月 25 日	年間購読､館内販売
展示情報シート	大町山岳博物館		館内にて販売中
総合案内	大町山岳博物館	1993 年	〃
カモシカ　氷河期を生えた動物	信濃毎日新聞社	1991 年	書店にて販売中
ライチョウ　生活と飼育への挑戦	信濃毎日新聞社	1992 年	〃
新･北アルプス博物誌	信濃毎日新聞社	2001 年	〃
ブルーガイド旅読本 上高地　安曇野　輝ける大地の自然と人	実業之日本社	2002 年	〃

８．館外の活動への参加・協力

（１）参加・協力一覧

月　日	内　容　（場所等）	主　　催	担　当
5／4	自然観察会（居谷里湿原）	大町市文化財センター	千葉
5／10	登山研修会（文登研）	文部科学省登山研修所	柳澤
5/17～19	登山講習会（針ノ木雪渓）	長野県山岳総合センター	柳澤
5／19	雪形ウオッチング（市内ほか）	雪形まつり実行委員会	岑村
5/22～28	登山研修会（大日岳ほか）	文部科学省登山研修所	柳澤
6／2	針ノ木岳慎太郎祭	慎太郎祭実行委員会	柳澤、千葉
6／8	登山講習会（山岳センター）	長野県山岳総合センター	柳澤

6／29	講演（東京）	日本山岳協会	柳澤
7／7	自然観察会（市内）	大町山岳博物館友の会	清水
7/12～18	登山研修会（文登研ほか）	文部科学省登山研修所	柳澤
7／20	講演（松本市）	中信高校教育研究会	柳澤
7／24	講座（市内）	関西電力黒四管理事務所	柳澤
7/24～25	登山引率（白馬岳ほか）	大町高等学校	千葉、関
8／2	街角ｳｫｯﾁﾝｸﾞ（市内）	山博友の会子供探検クラブ	岑村、関
8／4～5	登山引率（燕岳）	大町市民登山	柳澤、関
8/22～23	登山引率（爺ヶ岳）	大町第一中学校	岑村
10／10	ﾄﾚｯｷﾝｸﾞ準備（小熊山）	大町市観光課	千葉
10／12	ザイルワーク（市内）	山博友の会子供探検クラブ	柳澤
10/12～13	夜の博物館見学（館内）	山博友の会子供探検クラブ	柳澤、宮野
10/17～18	山と自然のシンポジウム（松本市）	環境省	柳澤、宮野
1／10	教本作成（山岳センター）	長野県山岳総合センター	柳澤
1／15	カモシカ調査（市内）	東京ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝｱｰﾄ専門学校	宮野
1/25～3/2	登山講習会（鹿島槍ほか）	長野県総合山岳センター	柳澤
2／28	登山講習会	長野県総合山岳センター	柳澤
3／15	登山研修会（山岳センター）	長野県山岳総合センター	柳澤
3／17	運営懇談会（山岳センター）	長野県山岳総合センター	柳澤
3／25	講演（東京）	日本山岳会図書委員会	岑村
3／27	野外活動（市内）	大町育成会	柳澤・宮野

Ⅵ　友の会活動（担当　宮野）

１．組織

（１）役員

①会長…長沢正彦

②副会長…丸山卓哉、渡辺逸雄

③運営部…部長：小沢文子　　部員：有川美保子、倉科恵一、越山頼子、下坂昌幸
　　副部長：丸山卓　　園田弘美、谷口澄子、佃廣幸、廣瀬誠、宮沢洋介
　　山崎一彦、渡辺逸雄

④事業部…部長：寺井篤樹　　部員…新井和男、塚田恵美子、田村佳美、松田忠雄
　　副部長…水口貴美代

⑤編集部：部長…宮沢洋介　　部員…増村征夫、丸山卓哉、岑村隆
　　副部長…木村節子

⑥事務局…倉科和夫、宮野典夫、清水博文、岑村隆、千葉悟志、関悟志、柳澤昭夫

⑦監査…塚田千代美、山内香代子

（２）構成

①ファミリー会員…169 ファミリー、618 人

②個人会員…117 人

③学生会員…0 人

④賛助会員…１団体

⑤終身会員…3 人

⑥名誉会員…5 名　　平成 15 年 3 月 31 日現在

２．運営部活動

3 月 17 日（日）　平成 14 年度　総会（山岳博物館　講堂）

4 月 14 日（日）　史跡・美術館・博物館めぐり「八ケ岳浪漫」（八ケ岳総合博物館、尖石考古館、八ケ岳美術館、八ケ岳自然文化園など）　25 名

4 月 20 日（土）　ボランティア講座「新展示の解説のポイント」（山岳博物館　２階展示室　11 名

7 月 7 日（日）　自然観察会「高瀬川自然観察会～クロツバメシジミの観察～」（高瀬川、観音橋付近　20 名

8 月 24～25 日（土・日）　自然観察登山「鹿島槍ヶ岳登山」（鹿島槍ケ岳）　25 名

10 月 19 日（土）　塩の道を歩く「秋の地蔵峠～古道の歴史と自然にふれて～」（北小谷～地蔵峠～大峠～横川）　32 名

11 月 30 日（土）　安曇地域の食文化「おやきー我が家我が味２」　20 名

2 月 9 日（日）　冬の自然観察会「歩くスキーと自然観察会　12 名

3 月 16 日（日）　平成 15 年度　総会

３．事業部活動

（１）喫茶「こまくさ」の営業

営業期間は平成 14 年 4 月 14 日（日）～平成 14 年 11 月 24 日(日)

１階ホール脇（旧教室）での新装したスペースでのサービス提供

４．編集部活動

刊　行　物　名	発 行 日	主　な　内　容
ゆきつばき通信 号外	4 月 1 日	行事案内…八ケ岳浪漫、ボランティア講座 博物館から…写生大会、小鳥の声を聞く会
ゆきつばき通信 104 号	5 月 25 日	行事案内…高瀬川自然観察会、子供自然観察会 事業報告…総会、歩くスキーと自然観察会、新入会員の紹介 博物館から…子供体験バスと体験学習
ゆきつばき通信 号外	8 月 7 日	行事案内…鹿島槍登山
ゆきつばき通信 105 号	9 月 7 日	行事案内…秋の地蔵峠　事業報告…高瀬川自然観察会、新入会員の紹介　博物館から…キノコ学習会、シンポジウム
ゆきつばき通信 106 号	1 月 15 日	行事案内…歩くスキーと自然観察会、総会 事業報告…秋の地蔵峠、おやき、キノコ学習会 博物館から…山博ゼミナール、生涯学習推進フォーラム
ゆきつばき 第 31 号	3 月 16 日	特集…とっておきのビューポイント 友の会ひろば…行事参加者の感想 三角点…会員の投稿、雑感 行事グラフ…写真で綴る年間行事の紹介 サークルだより…烏帽子の会と子ども探検クラブの報告

5．サークル活動

（１）子供探検クラブ

子供を中心とした野外活動・自然観察のサークル

5 月 5～6 日（日・月）　キャンプ（山の子村）

6 月 1 日（土）　水の不思議（山岳博物館講堂）

6 月 2 日（日）　慎太郎祭に参加（針ノ木雪渓）

6 月 15 日（土）　スズメバチの巣の中を見てみよう（山岳博物館レクチャースペース）

8 月 2 日（金）　街角ウォッチング（大町市街）

10 月 12 日（土）～13 日（日）　ザイルワーク（大町公園）、読み聞かせに参加（山岳博物館展望室）、夜の博物館泊（2 階展示室）、クロツバメシジミ調査（高瀬川観音橋付近）

（２）烏帽子の会

山歩きのサークル

「連れてってもらう登山」ではなく「連れてってやる山行」、「次はどの山に行こう」という雰囲気で身近な山に登るサークル

5 月 19 日（日）　石楠花の園ハイキング（鍬ノ峰・1623m）

7 月 13～14 日（土・日）　ニッコウキスゲの霧ヶ峰（三峰山・1887m）

8 月 24～25 日（土・日）　自然観察登山「鹿島槍ヶ岳」のサポート（鹿島槍ケ岳・2889m）

10 月 27 日（日）　中条村の里山を訪ねる（虫倉山・1378m）

1 月 26 日（日）　スノーシューで歩く冬の霧ヶ峰

3 月 21 日（金）　鹿教湯温泉から保福寺峠（1345m）へ

Ⅶ　その他

１．第３回ライチョウ会議（担当　清水）

平成 14 年 8 月 25 日～26 日の 2 日間、富山県天狗平を会場に、行政・研究者等約 60 名が参加した。中部山岳に生息しているライチョウの解明をとおし、保護と人との共存の道を探る目的で、「立山におけるライチョウの生態と個体群動態」・「高山環境」をテーマに、それぞれの研究・活動報告、行政・研究者等との情報交換を行い、調査・研究の現状把握とその方向性を行った。1 日目早朝には現地視察も実施した。当面事務局は大町市が行うが、組織など会のあり方については早急に検討を行い、次回会議開催の開催地は東京都で行う準備を進めている。

２．寄　付

宝酒造株式会社よりライチョウの保護を目的として 1,063,260 円の寄付があった。使途の内訳はライチョウの調査研究機材に 463,260 円、ライチョウ会議支援に 600,000 円である。

３．インスブルック市アルペン動物園創立 40 周年記念式典

平成 14 年 9 月 22 日アルペン動物園での式典に、腰原市長、柳澤館長、宮野副館長が参列した。同時にホオアカトキの飼育舎落成式が挙行された。

４．土砂崩れについて

8 月　4 日　集中豪雨により博物館下の道路の一部が崩れる。

8 月　9 日　8 月臨時議会全体協議会に報告する。災害補助金により修復、災害認定を受けて工事着工をする。10 月まで普通乗用車のみ通行可能、マイクロバス、大型バスの通行はできないお知らせをする。

8 月１０日　お盆の混雑対策として誘導員の配置による交互通行とする。

８月２７日　９月から着工、10 月末に終了の予定となる。

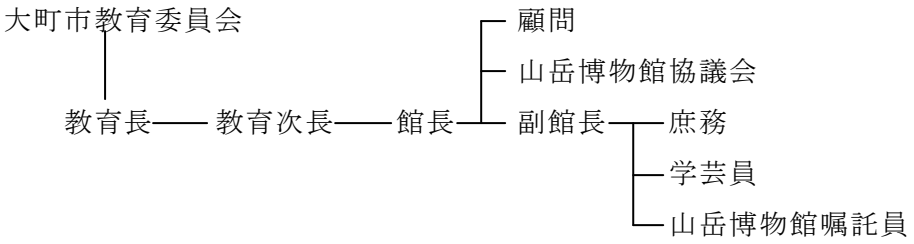
９月１１日　工事着工

１１月１日　通行可能となる。８月４日～10 月 30 日まで約 3,000 人の入館者に影響があったと思われる。

Ⅷ　運　営

1．組織および職員構成

（1）組織



（2）顧問

平林国男、千葉彬司

（3）山岳博物館協議会委員

学校関係者：合津十郎

社会教育関係者：武田武（会長）、有川美保子、横川仁、松原繁

知識経験者：藤沢秀（福会長）、山本携挙、飯島紀子、金原義子、飯沢茂雄、丸山卓哉

（4）職員名簿

館　長　柳澤昭夫（嘱託）

副館長　宮野典夫（庶務兼務）

学芸員　（自然科学系）清水博文、千葉悟志

（人文科学系）岑村隆、関悟志

臨時職員（庶務）高橋純子

（動物飼育）菅沼光雄、横澤志津、倉間友恵

（一般事業）勝野愛子、平林喬也、中村瑞樹、上條昌代

（5）人事異動

新規採用　勝野愛子、平林喬也（平成 14 年 9 月 1 日）

中村瑞樹、上條昌代（平成 15 年 2 月 1 日）

退　　職　中村瑞樹（平成 15 年 3 月 8 日）

勝野愛子、平林喬也、上條昌代（平成 15 年 3 月 30 日）

２．協議会

（１）第１回協議会

① 日時：平成 14 年 6 月 17 日 10：00～12：00

② 場所：市立大町山岳博物館講堂

③ 出席者：武田武、藤沢秀、山本携挙、有川美保子、丸山卓哉、横川仁、松原繁、飯沢茂雄
合津十郎

丸山一由、相沢文人、柳澤昭夫、宮野典夫、岑村隆、清水博文、千葉悟志、関悟志

④ 内容：・平成 13 年度経過報告
・平成 14 年度事業状況
・シンポジウムについての協議
・飼育動物のあり方、付属園の整備についての協議

（２） 第 2 回協議会

⑤ 日時：平成 15 年 3 月 28 日 15：00～17：00

⑥ 場所：市立大町山岳博物館講堂

⑦ 出席者：武田武、藤沢秀、丸山卓哉、横川仁、松原繁、飯沢茂雄、金原義子
丸山一由、相沢文人、柳澤昭夫、宮野典夫、岑村隆、関悟志

⑧ 内容：・平成 14 年度経過報告
・平成 15 年度事業計画
・教育普及活動について協議
・調査研究活動について協議

３．入館者状況

(1) 創立からの入館者状況

単位：人

年度	有料入館者							無料入館者			
	個人			団体			計	一般	市内		計
	大人	高校生	小中生	大人	高校生	小中生		減免	65～	小中	
昭和 26	291		100	21		77	489				
昭和 27	2,425		1,022	186		1,514	5,147				
昭和 28	8,922		2,229	725		1,216	13,092				
昭和 29	7,779		1,831	625		1,189	11,424				
昭和 30	6,831		1,664	1,445		945	10,885				
昭和 31	2,148		888	1,036		858	4,930				
昭和 32	1,934		658	826		1,880	5,298				
昭和 33	2,979		1,032	1,469		2,417	7,897				
昭和 34	2,972		626	1,727		1,788	7,113				
昭和 35	3,635		878	1,943		2,143	8,599				
昭和 36	4,181		1,329	2,132		2,521	10,163				
昭和 37	5,313		1,633	4,549		2,748	14,243				
昭和 38	6,394		1,854	4,727		2,918	15,893				
昭和 39	10,464		1,658	12,600		1,520	26,242				
昭和 40	14,214		1,696	8,050		1,600	25,560				

昭和 41	10,399		1,711	13,070		1,500	26,680				
昭和 42	12,891		1,649	8,301		3,059	25,900				
昭和 43	18,458		2,071	17,769		3,240	41,538				
昭和 44	16,273		2,100	10,845		3,749	32,967				
昭和 45	13,405		1,941	11,623		3,960	30,929				
昭和 46	18,414		3,001	14,718		3,193	39,326				
昭和 47	17,500		3,025	13,268		6,877	40,670				
昭和 48	25,809		4,178	22,612		5,774	58,373				
昭和 49	28,702		4,277	23,432		5,843	62,254				
昭和 50	32,345		4,896	23,616		6,835	67,692				
昭和 51	32,111		5,142	25,150		8,200	70,603				
昭和 52	26,155		4,311	18,907		5,327	54,700				
昭和 53	26,346		4,158	24,903		8,722	64,129				
昭和 54	27,769		4,485	25,089		6,600	64,003				
昭和 55	25,743		4,414	19,909		6,972	57,038				
昭和 56	31,697		7,558	16,182		9,695	65,132				
昭和 57	31,894	809	6,400	10,391	5,827	6,929	62,250	7,965			7,965
昭和 58	33,590	988	6,632	15,885	7,992	12,303	77,390	9,026			9,026
昭和 59	30,335	816	5,905	12,969	9,172	15,070	74,267	8,117			8,117
昭和 60	36,686	1,142	8,025	22,782	8,559	15,902	93,096	6,770			6,770
昭和 61	34,797	1,086	6,109	16,001	8,107	16,069	82,169	4,509			4,509
昭和 62	33,132	918	5,581	18,751	7,065	17,186	82,633	3,605			3,605
昭和 63	36,116	841	5,932	14,947	6,085	14,735	78,656	6,269			6,269
平成元	41,018	1,199	6,450	13,191	4,650	10,527	77,035	3,709			3,709
平成 2	43,444	1,108	6,752	16,486	3,045	7,119	77,954	4,844			4,844
平成 3	47,004	1,276	7,313	13,817	4,212	8,278	81,900	4,577			4,577
平成 4	42,197	725	5,719	13,068	1,687	7,015	70,411	3,413			3,413
平成 5	45,182	809	5,807	12,249	2,807	5,325	72,179	3,587			3,587
平成 6	38,354	933	4,809	10,561	1,932	4,974	61,563	3,376			3,376
平成 7	37,356	981	4,650	9,493	1,840	4,164	58,484	5,376			5,376
平成 8	36,002	869	4,189	6,601	1,905	2,244	51,810	2,174			2,174
平成 9	31,119	626	3,417	7,626	1,245	2,100	49,143	1,429			1,429
平成 10	28,219	637	3,105	6,023	764	2,006	40,754	1,686			1,686
平成 11	24,220	482	2,200	4,766	561	1,183	33,412	1,206			1,206
平成 12	23,082	501	2,273	5,344	648	1,024	32,874	1,187			1,187
平成 13	24,064	439	2,163	3,389	671	1,577	32,304	1,497	387	826	2,710

平成 14	20,497	472	1,744	2,580	675	808	26,776	990	190	443	1,623

（２）平成 14 年度の入館者状況　　単位：人

月	有料入館者							無料入館者			
	個人			団体			計	一般	市内		計
	大人	高校生	小中生	大人	高校生	小中生		減免	65～	小中	
4 月	2,024	50	130	218	145	143	2,710	85	84	49	218
5 月	2,476	47	226	473	18	303	3,543	368	34	71	473
6 月	1,287	43	56	248	0	61	1,695	75	11	122	208
7 月	2,290	36	152	719	482	177	3,856	97	0	69	166
8 月	4,145	173	812	65	0	83	5,278	43	5	26	74
9 月	2,092	52	94	68	0	0	2,306	8	4	41	53
10 月	2,698	22	72	244	30	5	3,071	99	27	30	156
11 月	1,686	9	55	345	0	0	2,095	100	6	9	115
12 月	459	2	17	102	0	36	616	30	14	7	51
1 月	231	2	18	0	0	0	251	8	2	1	11
2 月	411	5	30	0	0	0	482	21	0	1	22
3 月	728	31	82	0	0	0	841	56	3	19	78
合計	20,497	472	1,744	2,580	675	808	26,776	990	190	443	1,623
13 年度	24,064	439	2,163	3,389	671	1,577	32,304	1,497	387	826	2,710
前年比	89%	108%	81%	77%	100%	51%	83%	66%	49%	54%	60%

４．平成 14 年度予算・決算

（1）歳入　　単位：円

項　目	観覧料	望遠鏡使用料	国庫補助金	雑入	計
予算額	15,550,000	200,000	3,000,000	1,082,000	19,832,000
決算額	9,882,150	171,900	2,500,000	1,097,277	13,651,327
	△5,667,850	△28,100	△500,000	15,277	△6,180,673

（2）歳出　　単位：円

項　目	総務費	一般事業費	ライチョウ保護事業費	動物飼育費	計
予算額	53,617,000	5,771,000	6,275,000	5,248,000	70,911,000
決算額	51,447,941	7,544,942	6,740,369	5,649,364	71,382616
	2,169,059	△1,773,942	△465,369	△401,364	△471,616

Ⅸ　関係条例・規則等

１．市立大町山岳博物館条例

昭和 57 年３月 29 日
条例第 12 号

改正　昭和 61 年３月 24 日条例第８号　　平成元年３月 24 日条例第７号
平成４年３月 31 日条例第８号　　平成５年 12 月 24 日条例第 32 号
平成 12 年３月 29 日条例第 13 号　　平成 13 年３月 27 日条例第 13 号

市立大町山岳博物館条例（昭和 29 年条例第 18 号）の全部を改正する。

（目的）

第１条　この条例は、博物館法（昭和 26 年法律第 285 号。以下「法」という。）第 18 条及び地方自治法（昭和 22 年法律第 67 号）第 244 条の２第１項の規定に基づき、博物館の設置及び管理運営に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

（設置）

第２条　山岳に関する資料並びにこの地方における民俗、歴史その他の資料を収集して、保管又は展示し、一般の観覧に供し、本邦における山岳文化等の普及並びにこれらの資料の調査研究を行うため博物館を設置する。

（名称及び位置）

第３条　博物館の名称及び位置は、次のとおりとする。

名称　市立大町山岳博物館（以下「博物館」という。）

位置　大町市大字大町 8056 番地１

（職員）

第４条　法第４条の規定による館長、学芸員のほか必要な職員を置く。

２　必要に応じ顧問及び嘱託員を置くことができる。

（観覧料）

第５条　博物館を観覧しようとする者は、別表第１に定める観覧料を納付しなければならない。ただし、次に掲げる者は、この限りでない。

（１）　６歳未満の者

（２）　市内の小学校及び中学校に在学する児童又は生徒

（３）　市内に住所を有する満 65 歳以上の者

（使用料）

第６条　博物館の設備使用料は、別表第２に定めるとおりとする。

（観覧料の減免）

第７条　大町市教育委員会（以下「教育委員会」という。）は、特別な理由があると認めるときは、観覧料を減免することができる。

（資料の特別利用）

第８条　博物館資料を学術研究等のため特に利用しようとする者は、教育委員会の承認を受けなければならない。

（賠償責任）

第９条　故意又は過失により、博物館の資料、施設等を破損し、又は滅失したときは、教育委員会の命ずるところにより、これを原状に復し、又は損害を賠償しなければならない。

（博物館協議会）

第 10 条　法第 22 条の規定により、市立大町山岳博物館協議会（以下「協議会」という。）を設置する。

２　協議会の委員（以下「委員」という。）の数は、15 人以内とし、教育委員会が委嘱する。

３　委員の任期は、２年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（委任）

第 11 条　この条例に定めるもののほか必要な事項は、教育委員会が別に定める。

附　則

１　この条例は、昭和 57 年６月５日から施行する。

２　この条例施行の際、現に市立大町山岳博物館条例（昭和 29 年条例第 18 号）第５条の規定により委員として委嘱された者は、この条例第 10 条の規定により委嘱されたものとみなし、任期は、同条第３項の規定にかかわらず、昭和 58 年３月 31 日までとする。

附　則（昭和 61 年３月 24 日条例第８号）

この条例は、昭和 61 年４月１日から施行する。

附　則（平成元年３月 24 日条例第７号）

この条例は、平成元年４月１日から施行する。

附　則（平成４年３月 31 日条例第８号）

この条例は、平成４年４月１日から施行する。

附　則（平成５年 12 月 24 日条例第 32 号）

この条例は、平成６年４月１日から施行する。

附　則（平成 12 年３月 29 日条例第 13 号）

この条例は、平成 12 年４月１日から施行する。

附　則（平成 13 年３月 27 日条例第 13 号）

この条例は、平成 13 年４月１日から施行する。

別表第１（第５条関係）

種別	区分	単位	観覧料
一般	大人	１人	400 円
	高校生	〃	300
	小人	〃	200
団体 （30 人以上の場合をいう。）	大人	〃	350
	高校生	〃	250
	小人	〃	150

備考

特別の資料を展示する場合は、1,000 円の範囲内においてその都度教育委員会が定める額とする。

別表第２（第６条関係）

望遠鏡使用料	１回	100 円

２．市立大町山岳博物館規則

昭和 57 年３月 30 日
教育委員会規則第３号

改正平成元年３月 31 日教委規則第３号
平成９年 12 月 26 日教委規則第３号
平成 12 年３月 30 日教委規則第９号

（趣旨）

第１条　地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号）第 33 条第１項及び市立大町山岳博物館条例（昭和 57 年条例第 12 号。以下「条例」という。）第 11 条の規定に基づき、市立大町山岳博物館（以下「博物館」という。）の管理運営並びに市立大町山岳博物館協議会（以下「協議会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

（職務）

第２条　館長は、上司の命を受け、館を統括し、所属職員を指揮監督する。

２　学芸員は、館長の命を受け、博物館法（昭和 26 年法律第 285 号）第４条第４項に規定する職務を遂行する。

３　その他の職員は、館長の命を受け、職務を遂行する。

４　館長を補佐するため、副館長を置くことができる。副館長は、係長相当職をもって充てる。

５　嘱託員は、学術に関する職務に従事する。

（休館日）

第３条　博物館の休館日は、次のとおりとする。ただし、臨時に開館又は休館することができる。

（１）　毎週月曜日

（２）　国民の祝日に関する法律（昭和 23 年法律第 178 号）に規定する休日の翌日（この日が月曜日に当たるときは、その翌日）

（３）　12 月 29 日から翌年１月３日までの日（前号に掲げる日を除く。）

（開館時間）

第４条　博物館の開館時間は、午前９時から午後５時までとする。ただし、教育委員会が特に必要と認めたときは、これを変更することができる。

（観覧券の交付）

第５条　条例第５条の規定による観覧料の納付があったときは、観覧券（様式第１号）に領

収印を押印し、交付するものとする。

（観覧料の減免）

第６条　条例第７条の規定による観覧料の減免を受けようとする者は、博物館観覧料減免申請書（様式第２号）を教育委員会に提出し、承認を得なければならない。

（博物館資料の利用等）

第７条　条例第８条の規定により博物館の資料を利用しようとする者は、市立大町山岳博物館資料特別利用許可申請書（様式第３号）を教育委員会に提出し、承認を得なければならない。

２　前項の規定による資料の利用期間は、30 日以内とする。ただし、教育委員会が必要と認めた場合は、延長することができる。

（入館制限等）

第８条　教育委員会は、次の一に該当するときは、入館を拒否し、退館を命じ、又は許可を取り消し、その他必要な措置を講ずることができる。

（１）　公の秩序又は善良な風俗を害するおそれがあると認められるとき。

（２）　管理上支障があると認められるとき。

（３）　その他教育委員会が必要と認めるとき。

（資料の寄贈及び寄託）

第９条　博物館は、資料の寄贈及び寄託を受けることができる。資料を寄贈及び寄託しようとする者は、博物館資料寄贈・寄託書（様式第４号）を教育委員会に提出するものとする。

２　寄託を受けた博物館資料は、寄託者の請求によりこれを返還する。

３　博物館は、寄託を受けた博物館資料が災害その他不可抗力によって滅失又は損傷した場合は、損害賠償の責を負わない。

４　寄贈又は寄託を受けた博物館資料は、一般の資料と同一の取扱いをするものとする。

（資料等の滅失・損傷）

第 10 条　館長は、博物館の資料、施設等が滅失又は損傷したときは、速やかに教育委員会に報告し、その指示を受けなければならない。

（協議会の組織）

第 11 条　協議会に、委員の互選による会長及び副会長各１名を置く。

２　会長は、会務を総理し、会議の議長となる。

３　副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代行する。

（協議会の会議）

第 12 条　協議会の会議は、館長の諮問により会長が招集する。

２　協議会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。

３　会議の議決は、出席委員の過半数の賛成がなければならない。

附　則

１　この規則は、昭和 57 年６月５日から施行する。

２　市立大町山岳博物館規程（昭和 29 年教育委員会規則第９号）及び市立大町山岳博物館協議会規程（昭和 29 年山岳博物館規程第１号）は、廃止する。

附　則（平成元年３月 31 日教委規則第３号）

この規則は、平成元年４月１日から施行する。

附　則（平成９年 12 月 26 日教委規則第３号）

この規則は、平成 10 年１月１日から施行する。

附　則（平成 12 年３月 30 日教委規則第９号）

この規則は、平成 12 年４月１日から施行する。

様式（省略）

Ｘ　利用案内

交　通

ＪＲ信濃大町駅から　タクシーで５分　歩いて２５分

長野自動車道豊科Ｉ.Ｃより　４０分

開館時間

午前９時～午後５時　※入館は午後４時３０分まで

休館日

１１月～３月　月曜日、祝日の翌日　※月曜日が祝日の場合は開館し翌日休館

４月～１０月　無休

入館料

大人 400 円　　高校生 300 円　　小・中学生 200 円　※３０名以上の団体は各５０円割引

※そのほか各種割引あり

所在地と連絡先

〒398-0002　長野県大町市大字大町８０５６－１

ＴＥＬ：0261-22-0211／ＦＡＸ：0261-21-2133

E-mail：sanpaku@city.omachi.nagano.jp

URL：http://www2.city.omachi.nagano.jp/sanpaku/

市立大町山岳博物館　平成14年度年報

2004年3月〇〇日

編集･発行　市立大町山岳博物館

制作･印刷　北辰印刷